

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【宮原小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	(1)基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、活用できる資質・能力 (2)主体的に学習に取り組むことができる資質・能力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)既習事項の確認やスモールステップによる反復・習熟と、定着確認・活用場面の計画的・意図的な設定。【毎時間】 (2)学習の見通しをもたせるとともに、授業の中で自己選択や振り返りの時間の確保。【各単元の中で1回以上】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 調査会・校内研修等
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	・国語の「話すこと・聞くこと」の問題では、正答率が7割を超えた。 ・算数の「図形」や「測定」の問題では、正答率が低く課題がみられた。特に「体積の意味について理解しているかどうか」をみる問題において課題がみられた。 ・自らの学習を調整することができる資質・能力と関連する生徒(児童)質問「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について、肯定的な回答が9割以上であった。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	・国語では、相手の意図や内容を捉えて聞く力や、自分の考えを適切に伝える力をおおむね身に付けていると考えられる。 ・算数では、体積を「1cmの立方体の個数」として捉える理解が十分ではないと考えられる。また、「体積＝たて×横×高さ」という公式は知っていても、その意味や成り立ちについての理解が浅く、正答率が低いと考えられる。 ・多くの児童が、主体的に学習を調整することができている。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	さいたま市学習状況調査(5月) <小1～中3>・(11～12月)	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学力向上策①(1)・(2)ともに実施することができている。①(1)については、児童の実態を踏まえ、自分の考えを説明し合う活動や具体物の操作活動等を通して理解を深めていく。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	(変更なし)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所